

日本工学院専門学校	開講年度	2020年度	科目名	アドバンスレッスン1_a	
科目基礎情報					
開設学科	ミュージックアーティスト科	コース名	サウンドクリエイターコース	開設期	前期
対象年次	2年次	科目区分	必修	時間数	30時間
単位数	1単位			授業形態	演習
教科書/教材	単元に応じて配布				
担当教員情報					
担当教員	川島 基宏/甲原 圭		実務経験の有無・職種	有・トラックメーカー/作曲家	
学習目的					
1年で学んだ作曲編曲の技術を2年生ではさらにDAWの中でより精度を磨いた形で作品にしていく。 ミックス・マスタリングにより深い考察と理解をする。 エフェクトや波形編集においては、より音楽性が豊かに感じ取られるトラック制作への知識と技術を身につける。					
到達目標					
実践的なミックスが実現できるように、講義だけではなく各自の作品のDAWデータを見ながらできるだけ解説をする。昨今の音楽は音の仕上げにおいてより複雑でインパクトのある音楽が求められる。EQ、コンプ、リバーブなどの考え方をより深めることによって現代のニーズに応えられるミックスの技術を磨く。また生楽器のミックスではより自然な音にするという事がどういうことなのかを学ぶ。エフェクトを考える意味合いも常に「音楽的」でありことを前提に工夫する思考を磨きたい。Real Dreamsや卒業制作に反映させる。					
教育方法等					
授業概要	一人ひとりの作品のプロジェクトファイルをモニタリングしながら、それぞれのトラックにしかけてあるプラグインエフェクトや音色に対するアプローチを確認。 考え方をチェックしてより効果的なテクニックがないかを考える。 またミックスやマスタリングに関してはあらためて考え方を講義する。				
注意点	何よりも出席重視という事。そして自分以外の人の作品にも興味と考察を深められるようにしたい。そのことで多くのジャンルやスタイルに対する対応力が着く。授業時数の4分の3以上出席しない者は定期試験を受験することができない。				
評価方法	種別	割合	備 考		
	試験・課題	30%	課題は必ず提出。内容は考慮しない。		
	小テスト	20%	トピックごとに行う		
	レポート	0%			
	成果発表 (口頭・実技)	0%			
	平常点	50%	出席に重点を置く		
授業計画（1回～15回）					
回	授業内容		各回の到達目標		
1回	ミックスダウン①		ミックスセッションのセットアップについて設定を理解する 他作業工程を学ぶ		
2回	ミックスダウン②		各トラックへの設定を学ぶ トラックごとの名前・色などの設定方法を学ぶ		
3回	ミックスダウン③		ミックスワークフローを理解する パス・音量バランス・パンニングの調整を学ぶ		
4回	ミックスダウン④		オーディオプロセッシングを理解する EQイコライジングについて技術を習得する		
5回	トラックダウン①		ダイナミクスコントロールについて理解する		
6回	トラックダウン②		オーディオデータの編集に関してその作業方法と効果を理解する		
7回	トラックダウン③		トラックごとのプラグインの方法とその効果を理解し習得する		
8回	トラックダウン④		オートメーションの入力 書き出し方法を習得する		
9回	マスタリング①		マスタリングの意味を理解する ミックスとの違いを把握し作業工程を習得する		
10回	マスタリング②		音声の修復 雑音ノイズ等の修復作業についてその方法を習得する		
11回	マスタリング③		ステレオエンハンサーについてその効果と意味を理解する 音像調整の方法を習得する		
12回	マスタリング④		イコライザーの効果と方法を習得する		
13回	前期音源制作		エフェクト～コンプまで		
14回	前期音源制作		ミックスダウン・トラックダウン・マスタリングまでを使い既存または自身の音源を制作する		
15回	発表会		各自作品発表 確認		

日本工学院専門学校		開講年度	2020年度	科目名	アドバンスレッスン2_b
科目基礎情報					
開設学科	ミュージックアーティスト科		コース名	サウンドクリエイターコース	開設期 前期
対象年次	2年次		科目区分	必修	時間数 30時間
単位数	1単位				授業形態 演習
教科書/教材	自分で制作した楽曲を保存しておけるようなUSBまたはハードディスク				
担当教員情報					
担当教員	二本柳一明 下條 慧			実務経験の有無・職種	有・トラックメーカー/企業作家
学習目的					
ポートフォリオ制作に向け、各個人が必要とする能力を習得する。 作編曲・ミックス・音作りなど、多方面からのアプローチにより、楽曲のクオリティー向上を目指す。					
到達目標					
各自が目指すクリエイター像により高いレベルで近づく。 しっかりした裏付けに基づく知識と技術を身につけ、より高レベルなポートフォリオの作成に反映させる。					
教育方法等					
授業概要	主に生楽器を扱いボーシング手法等を学ぶアナログ班と、DTMベースでアレンジを進めるデジタル班に分かれる。 講義等は基本的にその班ごとに行い、演習でさらに細かく個別指導を行うものとする。班の行き来は一定の条件を満たしているならば、可能とする。 オプションとして後期には同じ講義内容をもう一度繰り返すので、自分に合う活用法で利用するものとする。 受講生は1週間のうちに添削用の楽曲を準備、授業ではその楽曲の改善指導を行うものとする。				
注意点	指導に、より客観性を持たせるため二人の講師は極力全員の進行状況を把握するよう努める。弦・管などのセッションレコーディングは9~10月を予定。受講生には自発的に質問・意見を発言する自発性が望まれる。受講生本人が進め方を決める授業なので、頂くたびに自らの力で打開策を見つける必要がある。もちろん教員はその手助けを行う。授業時数の4分の3以上出席しない者は定期試験を受験することができない。				
評価方法	種別	割合	備 考		
	試験・課題	60%	作品提出の他、トピックごとに宿題あり。		
	小テスト	0%			
	レポート	0%			
	成果発表 (口頭・実技)	0%			
	平常点	40%	出席率および受講態度		
授業計画（1回～15回）					
回	授業内容			各回の到達目標	
1回	(共通) chord symbol と chord scale			chord symbol=chord scale であることの確認と、基礎的なchord scaleの確認	
2回	(共通) approach note と LIL			approach note の種類を整理、low interval limit 判定時の注意点を確認	
3回	(共通) diatonic harmony			グレード9, 12, 17に準じる	
4回	(A) voicing (2声のハモリと4 way close) (D) EQの使い方			(A) 音程ごとに2声ハモの使い分けを行う。4 way close voicing の習得 (D) 基本知識と楽器や用途によつての使い分けを学ぶ	
5回	(A) voicing (各種 drop voicings) (D) コンプレッサーの使い方			(A) drop 2/ drop 3 を習得 (D) 基本知識と楽器や用途によつての使い分けを学ぶ	
6回	(A) drop voicings 続き (D) リバース・ディレイの使い方			(A) drop 2&4 を習得 (D) 基本知識と楽器や用途によつての使い分けを学ぶ (opt: send/ return)	
7回	(A) spread voicing (D) ドラムの音作りとパターン			(A) 4声の spread voicing を習得 (D) ダンスミュージックにおけるドラムの打ち込みと音作りについて学ぶ	
8回	(A) cluster voicing (D) ベースの音作りとパターン			(A) cluster voicing および中難易度の chord scale を確認 (D) 808とシンセベースについてそれぞれの打ち込みと音作りについて学ぶ	
9回	(A) 録音に向け、該当楽器の instrumentation (D) コードシンセの打ち込み			(A) 決定した楽器編成に基づく楽器特性とスコアリングの確認 (D) コードシンセの打ち込み方や音作りの方法について学ぶ	
10回	(A) 3声の voicing (D) リードシンセの打ち込み			(A) 3声の voicing 手法を習得 (D) リードシンセの打ち込み方や音作りの方法について学ぶ	
11回	(A) レコーディング作品制作 (D) サイドチェインについて			(A) レコーディング準備 (D) サイドチェインの用法や使い方を学ぶ	
12回	(A) レコーディング作品制作 (D) レイヤーについて			(A) レコーディング準備 (D) 音を効果的に重ねて、新たな音色を作り出す方法を学ぶ	
13回	(A) レコーディング作品制作 (D) loop素材やone shot素材について			(A) レコーディング準備 (D) loop 素材や one shot 素材を使い、リズムや曲に色をつけることを学ぶ	
14回	(A) レコーディング作品制作 (D) ミックスについて1			(A) レコーディング準備 (D) ミックスの基本的な考え方、全体の捉え方について学ぶ	
15回	(A) レコーディング作品制作 (D) ミックスについて2			(A) レコーディング準備 (D) 実際に素材をミックスしてみる	

日本工学院専門学校	開講年度	2020年度	科目名	アドバンスレッスン1_c	
科目基礎情報					
開設学科	ミュージックアーティスト科	コース名	サウンドクリエイターコース	開設期	前期
対象年次	2年次	科目区分	必修	時間数	30時間
単位数	1単位			授業形態	演習
教科書/教材	自分で制作した楽曲を保存しておけるようなUSBまたはハードディスク				
担当教員情報					
担当教員	川島基宏/原田博之		実務経験の有無・職種	有・トラックメーカー・作編曲	
学習目的					
楽曲また作曲家等分析することにより、自分がどのような作品を制作するのかを改めて認識し、卒業後の作家としての活動に生かしていくことを目的とする。 後期は「協働制作」をテーマにし、昨今のクリエイターとして必要不可欠なコンテンツを含めた制作を進め音楽だけではなく幅広いクリエイターを目指す。					
到達目標					
分析を基にコンテンツ制作も視野に入れたクリエイターを目標とする。 他人とのコ・ライティング、共同作業によってコミュニケーション能力を高めていく事、そしてそれらにより作品のクオリティを上げていくことを目標とする。 合同卒業展への作品展示・Real Dreamsでの披露等幅広く活用できる作品を制作する。					
教育方法等					
授業概要	前期は主に分析を主とした講義を展開する。音楽の分析はもとより後期に向けてのグルーピングのための各個人の人間分析も行う。 各個人の音楽に対する分析を基に分析課題を行い発表し、方向性の近い学生とチームを作り、後期はチームごとで制作に入っていく。 最終授業内でプレゼン発表会を行う。				
注意点	前期の分析発表会では他人の発表もこまめにノートに記録する。分析結果をもとにグルーピング基準を検討し制作すること。授業時数の4分の3以上出席しない者は定期試験を受験することができない。				
評価方法	種別	割合	備 考		
	試験・課題	50%	授業内容の理解度を確認するために実施する。		
	小テスト	0%			
	レポート	30%	課題発表のレポート内容を評価する。		
	成果発表 (口頭・実技)	20%	発表会での内容を評価する。		
	平常点	0%			
授業計画（1回～15回）					
回	授業内容		各回の到達目標		
1回	ガイダンス		授業内容の概要・スケジュール等告知		
2回	アナライズとは		アナライズの内容を理解する		
3回	第一課題「分析するということは？」①		分析することは？というテーマの告示 全ての事象に関しての分析を各自説明できるように考察する		
4回	第一課題「分析するということは？」②		各自考察した「分析することは」という課題をプレゼンテーションする		
5回	第二課題「音楽における分析とは？」①		音楽を分析することはどのポイント分析するかの考察・討論を行いプレゼンの基盤を作る		
6回	第二課題「音楽における分析とは？」②		各自考察した「音楽における分析」という課題をプレゼンテーションする		
7回	第三課題「好きな音楽を分析する」①		自分の好きな音楽を特定しその内容を理解する 楽曲分析の考察を行う		
8回	第三課題「好きな音楽を分析する」②		各自考察した「自分の好きな音楽を分析する」という課題をプレゼンテーションする		
9回	第四課題「自分の人生の分析」①		自分の振り返りシートを作成し自分の人生の分析を考察する		
10回	第四課題「自分の人生の分析」②		各自考察した「自分の人生を分析する」という課題をプレゼンテーションする		
11回	グルーピングセッション①		グループ組のプレゼンテーション 第一～第四課題を考慮しグルーピングを確定させる		
12回	グルーピングセッション②		制作内容のミーティングを行い楽曲の方向性を確定させる		
13回	グルーピングセッション③		コンテンツ内容のミーティングを行い制作のソースを確定させる		
14回	グルーピングセッション④		スケジュールリング、レコーディング、作業工程表等制作進行の予定を組む		
15回	前期まとめ		各グループ制作内容発表プレゼンテーション		

日本工学院専門学校	開講年度	2020年度	科目名	アドバンスレッスン1_d	
科目基礎情報					
開設学科	ミュージックアーティスト科	コース名	サウンドクリエイターコース	開設期	前期
対象年次	2年次	科目区分	必修	時間数	30時間
単位数	1単位			授業形態	演習
教科書/教材	資料は必要に応じて配布します。				
担当教員情報					
担当教員	鈴木一義・永田志実		実務経験の有無・職種	有・ミュージシャン	
学習目的					
国内における音楽制作環境の多くは、プライベートスタジオと呼ばれる自宅などを中心としたDAW環境に移行されている。1年次では、限られた制作環境の中でいかにクオリティの高い作品を生み出すかについて実践的なアプローチを習得してきた。2年次では、ミックスアプローチをさらに深く掘り下げて、より立体的な音場作りを習得する。また、録音時の集音方法によるサウンドの違いを理解し、実践的なミックスに取り入れる。さらにマスタリングの基礎を学び、完全なパッケージとしてクライアントの要望を的確に捉え、作品のクオリティをさらに高める方法を習得する。					
到達目標					
楽曲制作のポストプロダクションの過程となるミックスの構造を理解し、自身の楽曲におけるミックスアプローチの向上、さらに録音した音をより立体的な音場作りを行う方法の習得を目指す。 音作りにおいて重要となるエフェクト効果の知識を深め、楽曲に合わせたサウンドメイクを行うこと、マスタリング基礎知識を学び、録音ーミックスーマスタリングのプロセスを経て、自身で作品をパッケージ化するまでの方法を習得することを到達目標とする。					
教育方法等					
授業概要	この授業では、1年次に習得したレコーディング技術をさらに深めるとともに、コンプレッサーやイコライザーなどのダイナミクス系エフェクトプラグインやディレイやリバーブなど空間系エフェクトプラグインの使い方を理解し、自作曲にフィードバックする技術力を身につける。また、必要に応じて、マイクプリアンプやコンプレッサーの実機を使用し、適正レベルでのレコーディングを行える技術力を習得する。最終的には一般に流通している音源と差異のないレベルの作品を仕上げることを目的とする。				
注意点	授業の際は筆記用具、ノート（五線紙もあることが望ましい）、データを記録する外付けHDD（SSD）、ヘッドフォン（必要に応じてミニステレオ→標準フォンプラグの変換）を毎回用意すること。毎回の授業内容はノートに採り、自身で繰り返し確認できるようにする。授業時数の4分の3以上出席しない者は定期試験を受験することができない。				
評価方法	種別	割合	備 考		
	試験・課題	30%	試験と課題を総合的に評価する		
	小テスト	10%	授業内容の理解度を確認するために実施する		
	レポート	20%	授業内容の理解度を確認するために実施する		
	成果発表 (口頭・実技)	30%	授業時間内に行われる発表方法、内容について評価する		
	平常点	10%	積極的な授業参加度、授業態度によって評価する		
授業計画（1回～15回）					
回	授業内容		各回の到達目標		
1回	1年次の復習(1)		修了制作作品を振り返り、レコーディングおよびミックス面からのアプローチを再考する		
2回	1年次の復習(2)		代表的なエフェクターの使用方法を確認する		
3回	音場空間の解析(1)洋楽		代表的な洋楽を聴き、各楽器の定位を理解し図形化する		
4回	音場空間の解析(2)邦楽		代表的な邦楽を聴き、各楽器の定位を理解し、図形化する		
5回	コンプレッサー(1)		録音時のコンプレッサーの使い方を理解する		
6回	コンプレッサー(2)		音色変化のためのコンプレッサーの使い方を理解する		
7回	コンプレッサー(3)		マスタートラックにコンプレッサーをインサートし、音圧を稼ぐ方法を理解する		
8回	録音実習(1)ドラムの録音		マイクを4本使用し、ドラムのレコーディングを行う		
9回	録音実習(2)ドラムの録音		マイクを8本使用し、ドラムのレコーディングを行う		
10回	倍音について		倍音について正しい知識を身につける		
11回	イコライザー(1)		各楽器の周波数特性		
12回	イコライザー(2)		マスタートラックでの調整		
13回	トラックダウン(1)		ボリュームとパンのみを使用し狙った定位に楽器を配置する		
14回	トラックダウン(2)		コンプレッサーをイコライザーを使って狙った定位に楽器を配置する		
15回	インピーダンスについて		インピーダンスとは何かについて適正な知識を身につける		